



体験版



人妻律子
輪姦す

インタビュー〜その後……

ビデオ

街中にある雑居ビル、エレベーターで上がった先に在る一室へと、私は入って行く……

「約束どおりに、一人で来ました……お金は、この通りに用意してきましたから、写真とビデオを早く返してください。」

部屋の中には男が一人、私を待ち侘びてでもいた様に椅子に座って待っていた。

「約束の二百万です……これでいいんですね。もつこれで縁は切れたんですね。」

一月ほど前の出来事……街中で、ちょっとした新商品のモニターインタビューをしてくれないかと言葉巧みに誘われ、時間があった事もあり、誘われるままにインタビューに応じたのが間違이었다。

「私が馬鹿だった……彼方達の言葉に誘われて……私が本当に……くっ！」

2
気がつけばインタビューは、何時の間にか私の事を陵辱する事へと変わり、必死の抵抗もむなしく何か薬物を注射された上で、私は何人もの男達によって輪姦され、その時の全てをビデオに撮られてしまった事となってしまうた。

全てが終わった後……男達に輪姦され、ぐったりとしている私に男達は、いま撮影したというビデオを見せつける。

『きもち……いいい！ あつぐうう、んっあああっ！ はあんっあああ……ひいんっ！』

「ひい……そんな……うそ、私はこんな事……うそー！」

撮影されたビデオの中、淫らに喘ぎながら、喜悅の表情を浮かべながら、男のペニスをむしゃぶりつく私の姿……

『はあひい！ わたあひいのおちゃんぽあ……いれてええ、もんでええ……あああっ……いれてえええ！』

淫らな嬌声を上げ、淫乱で卑猥な言葉を発しながら、嬉しそうに男達と交り、男のペニスを舐めしゃぶり、腰を激しく動かしながら、男達のペニスを貪る私の姿が写し出されていた……

「ちがうー！ わたしは……わたしじゃない、わたしはこんな……うそよああー！」

しかしそれは現実であり、男達はそのビデオを私に見せながら言いつ……「このビデオと写真を買取るか、それとも男達が主催している「人妻売春倶楽部」に所属するかを聞いてきた……

「そんな……」



絶対する私に向かつて、男達は更に言う……「買い取るなら即金で二百万」「人妻美容倶楽部」に所属するなら、逆に仕事一回につき、それなりの額をキチンと出してやる……

「払います……お金を払いますから、ビデオを写真を返してください！そして二度と、私の前に現れないでください！」

警察に届け出る事も考えたが、いまの生活が壊れてしまう事が怖く……私は、その場で二百万と言う金額を支払う事を選んだ……選んでしまった。

それが一ヶ月前の事……無論の事、平凡な主婦である私にとって、二百万と言う金額は大金であり、すぐに用意できる金額ではなかった。

それでも必死にお金を工面して、ようやく男達にお金を用意する事ができ、その受け渡したのであった。

紙袋に入った二百万の大金、男はそれを袋から取り出して、金額を確認して言う……少々金額が足りない……

「そんな事はありません、ちゃんと二百万ある筈です！」

私の言葉に男は、続けて言う……確かに二百万だが、一か月の利子が不足している

「利子……何の話ですか、この間……言っただじやないですか、一百万円払えば、写真とビデオを返してくれると、そして二度と私の前に現れないと！」

男は再び言う……一ヶ月分の利子が足りない……足りない分は、身体で払ってもらおうかと……

「そんな……騙したのね、最初から私を……あつ、いやああ……」

眼の前の男が、私に飛び掛ってくる。

「いやあ、やめて、やめてください、だめえ！」

襲いかかってくる男から逃れようとしたが、足をつかまれてしまい、その場に転倒してしまふ。

「だれかあ、誰かたすけてえ、助けてちょうだい！おねがだから、お願いしますから、利子の分もちゃんと払いますから、足をはなしてえ、だれかああ……」

必死になって逃げようと足掻く私を、すすすすと引きずる男……

「いたあい、ひっぱらないでえ、足が……やあ、いやよあ……いやああ……」

逃げようと足掻く私の前に、人影が現れる。

「あつ、ああ……たすけて、たすけて、お願いだから、たすけてえ！……ひい！」

現れた人影に向かつて、私は思わず助けを求め……だがその人影の正体を、その人影がだれであるかを知った瞬間、私は呻くような声を出してしまった。

「彼方は……あの時の……やああ、いやああ……」

現れた人影は、あの時に……一ヶ月前に、私を輪姦した男達の中の一人であった。

「うそ……そんな……いやいやいやいや、いやよああ……」

どこに隠れていたのか、現れた人影は一つではなく、次々に現れる。

「彼方達は、最初から……また私の事を！ はなしてえ！ もついやあ、この前のような事はいやあよお、御願いだからよしてえ！ 誰かたすけてええ　！」

私は助けを求める悲鳴を叫ぶが、その助けを求める悲鳴を聞いているのは、いまから私を犯そうとして……再び私を輪姦しようとしている男達だけであった。

「いやああ！ たすけてえ、あなたああ、たすけてええ！」

そして男達は、その場に私を押しさえ込むと、一月前の時と同じように、私を……陵辱し始めた……

麗奴

「どつも初めまして、今回御指名をして頂きました律子です。不束者ですが、今日は御主人様の御希望に添つように尽くさせて頂きますので、どつぞ可愛がってくださいね……えっ？ あのインタビュービデオを見て、私のファンになった……そうですね、ありがとうございます。あの……なんでしたら時間もたっぷりありますし、新作といえますか、私の新しいビデオがあるのですが……はい、見てくださるんですね。嬉しいです……それじゃ、DVDをセットしますから、少しお待ちくださいね」

私はDVDラックからDVDを一枚取り出して、備え付けの器械にセットし、そのDVDを再生する。「すぐに始まりますから、今回のビデオを私の自信作……と言いますが、凄いいビデオなんですよ、御主人様が気に入ってくれたら嬉しいのですけど……」

結局……私は、再度男達に輪姦されてしまった。

そして不足分の利子の代わりに、男達が主催している「人妻売春倶楽部」に強引に所属させられてしまつ事となった。

拒否する事など出来ない……新たに撮られた輪姦ビデオ、それを更なる脅迫の材料にされ、私は週に一度が二度……多い時は連日、男達からの呼び出しで客を取らされる日々が続き……私は、その事に慣れた……慣れるしかなかった……そして今日も、こつしてホテルの一室で、見知らぬ客の相手を……御主人様の御相手をしている。

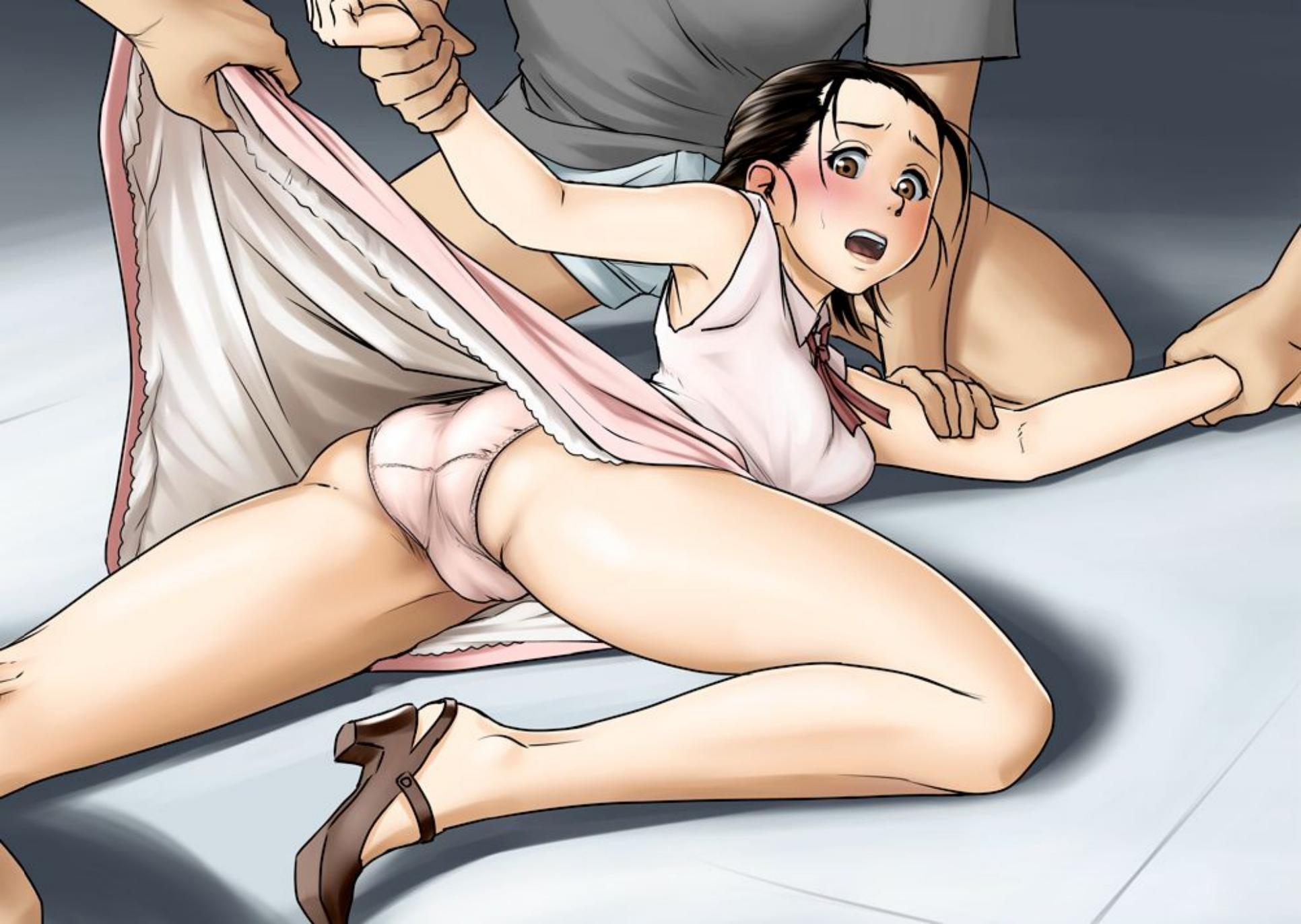
「あつ、始まりましたね」

数十インチはあるつかと言つ大画面のモニターに、私の姿が映し出される……何人もの男達に輪姦されている私の姿……

床に押し倒され、着ている服を脱がされて行く私の姿……ブラウスを剥ぎ取られ、ブラジャーを引き千切られ、ブルン！ と、私の綺麗な乳房が露になる。

「綺麗な乳房ですか……褒めて頂きありがとうございます」

モニターを見ている男の手が、私の胸の方へと延びてきて、服の上から乳房を揉む……そしてモニターの中の私も、露となった乳房が揉まれて行く……歪み……潰れ……乳首を抓まれ……大きく無骨な男の手によって覆い隠され……手から溢れ出しながら揉まれる。



「柔らかくて、弾力が良い……皆さんそう言ってくれます。女としては、嬉しい事ですね……ふふ
ふ……」
私の乳房が舐めしゃぶられる……乳首を舐め回す男の舌先……唾液で濡れ光る乳房……男の無骨な掌
で覆い隠される私の乳房……掴まれ……押し潰され……指の間に乳首が挟まれ……動き……こねられ……
揉まれ続ける私の乳房へと、揉んでいる男の口が近寄る……
じゅっびゅっ……私の乳房を吸う音がする……ペチャペチャと舐めしゃぶり、じゅぼんーと音を立
てて、男は私の乳房をゆれ動かさせる。
んっ……むじゅるっ……ちゅあぶっ……男の舌が、私の乳首を舐め吸っ……音を立てながら……
そしてスカートが脱がされていく私……

「えっ？ 今日、どんな下着を着てきたか……ですか？ それは、見てからのお楽しみと言っ事で
……じゅふい……」
脱がされたスカート、露となった下着……控えめなデザインと色彩……その下着が、強引に脱がされ
る。

「前回の時のビデオ、そして今回のビデオ……本当に強姦と言っか、無理やりに本当に輪姦されていた
のか……ですか、どうなんでしょうね？ もっ忘れてしまいましたから……それとも気になりますか？」

7

眼を血走らせながらビデオを見ていた御主人様が、私の言う……

「えっ？ もっと音声を大きくしろ……ですか、解りました御主人様……」

私はポリウレムを大きくする。

『やめてください、おねがいです。おねがいますから、やめてください、はなしてください！』

泣き叫びながら、必死の抵抗を続けている過去の私の姿……無駄なのに……意味のない抵抗なのに……

……でもこの時は、そっする事しかできなかった。

そして私の上に覆い被さっていた男が、暴れ続ける私の腹にパンチを叩き込む。

『うっげえ……ぐえぶ……があぶー』

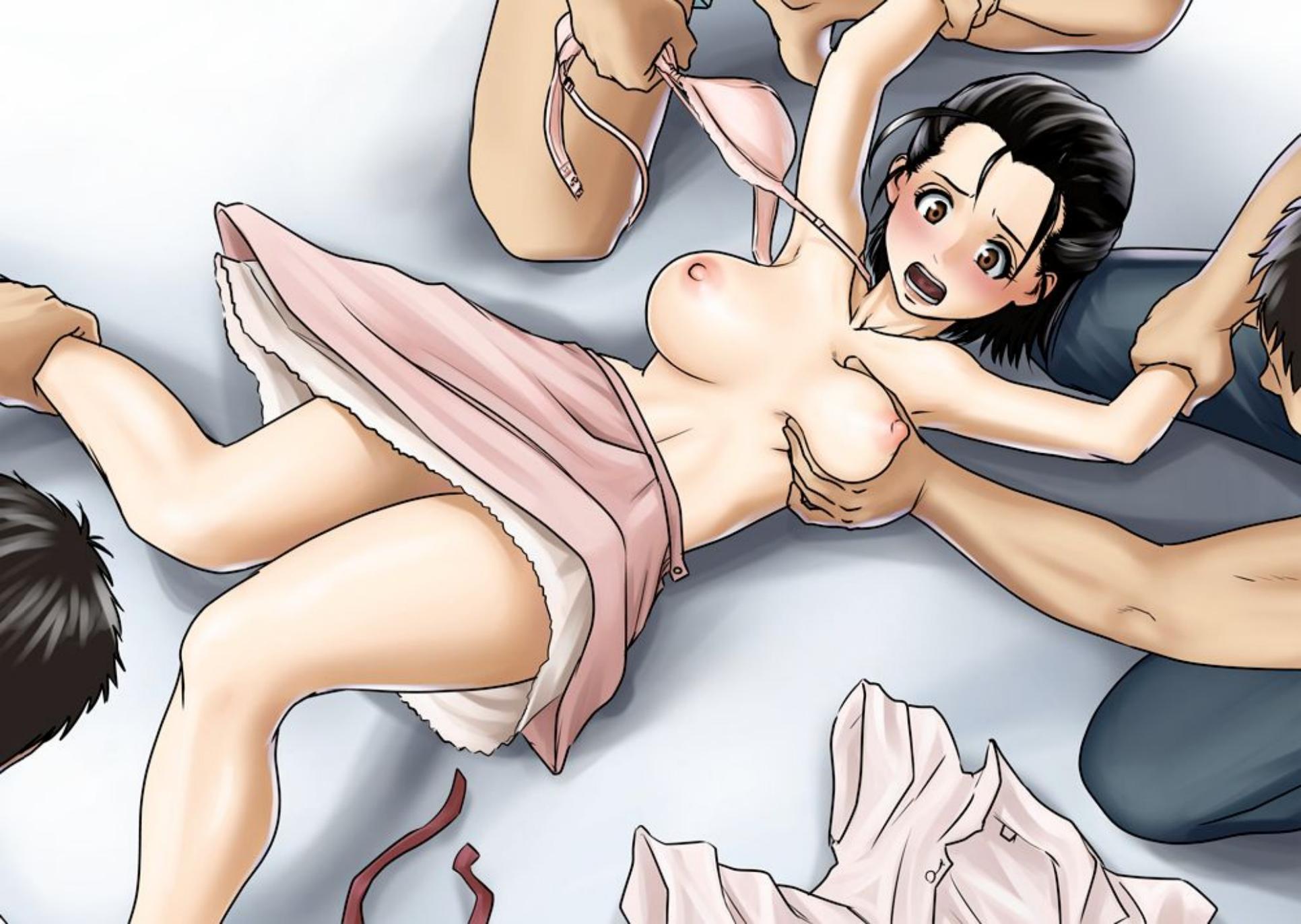
蛙を踏み潰したような声を出しながら、私の抗いの動きが止まる。

「本当に殴られたのか……ですか？ ええ……本当にお腹を叩かれて、痛かったですよ」

私は笑顔で応え、返事をする……そしてモニターの中で、静かになった私……この時には意識を失っ
てしまっており、どっであつたのか記憶には無い……

「全部脱がされちゃいましたね……私の裸が綺麗ですって……褒めて頂きありがとうございます。あと
でサービスしちやいますから、期待してくださいね。御主人様」

全裸にされているモニターの中の私、そんな私の姿を、薄笑いを浮かべながら見ている男達の姿……
でも意識を失ったままでは、面白くないとも言っように、男の中の一人が、意識を失っている私の頬



を軽く叩く……

『うっ……うっ……ん……』

小さな声を出して意識を取り戻した私は、再び大きな悲鳴を上げる。

『いやあ！ やめてください、はなしてえ、おねがいですから、おねがいだから、やめてええ！ 誰か、誰かたすけてええ！』

既に遅いのに……私は知っている……この先どうなるか、どうなってしまうのか……誰も助けになんか来てくれないと言っ事を……

『いやあ、いやああ！』

男達から逃れようと、再び暴れ出す私……髪が汗で濡れ、剥き出しにされている乳房がブウルと揺れているのが、こっして傍目から見ると妙におかしい……そう思ってしまう。

「うっ……」

小さな笑い声が漏れ出してしまう……暴れ続ける私……掴まれている足も動き、白い太股がフルフルと魅惑的に動く……顔を背け……大きく口を開け広げ……涙を流しながら助けを求め続ける私……滑稽なくらいに必死の形相の私……汗と涙で流れた化粧が本心に滑稽だ……

「もしも……」

思わず口から言葉が漏れる……もしも時を遡る事ができたら、私はこんな目にあつ事無く、主人と子供と一緒に平和な生活を送り続ける事が出来ただろうか？

そんな……考えてもしようがない事を考えてしまう……

「ええ……いよいよですね……」

客である男の興奮したような表情、その視線がモニターの中の私へと注がれている。

男達から苦れようと足掻く私、笑いながらそんな私を押さえつける男達……やがて男達の手によって、全裸にされた私の体は、完全に押さえ込まれる。

『ひい！ やだあ、よしてえ、そんなのいやあー！ もっいやああ、いやよああー！』

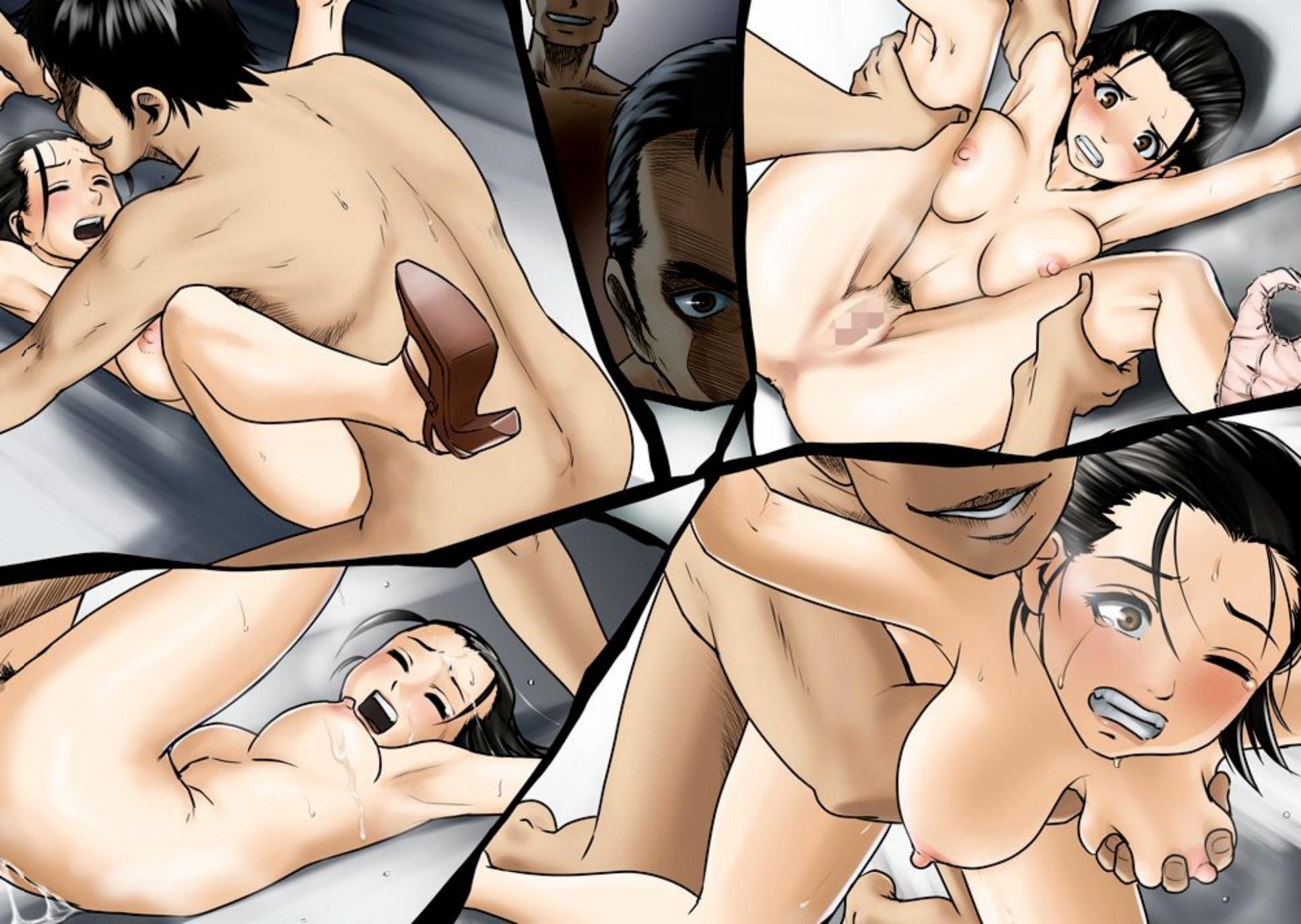
押さえつけられている私の前に男が立つ……そしてスポンを脱ぎ……その下のトランクスも脱捨て、威きり立ったペニスを私の眼前に曝け出す。

『いやあー！ いやああ！』

ひととき高く吐き出される私の悲鳴、その悲鳴に誘われるように、下半身を丸出しにした男が、悲鳴を上げ続けている私の上に覆い被さる……そして画面が切り替わる……陰毛が生え揃った私の股間へと突き込まれて行く男のペニス……強引な挿入……ずぶずぶと言っ音が、どこからか聴こえてくるような強引な挿入……

『誰か、だれかあ、もっいやああ！ ……おねがいだから、やめてえ、やめてええー！ あっ！ ああ……』

叫び続けていた私の声が突然に止み、その代りとも言っように、低いすすり泣く様な呻き声が漏れ出し聴こえてくる……やがてそれは嗚咽となり……赤ん坊のような憐れな泣き声へと変わって行った……



何人もの男達が、次々に私を犯して行く……そして一回り、私を犯した男達は、次の行為へとコマを進めて行く……

『あつ……んっくうっ、んっあああ……』

順番に私を犯した男達は、今度は泣き続けている私にペニスをしゃぶらせた。

既に抵抗する気力もなくなっていた私は、言われるままに男達のペニスを口に含み、舐めしゃぶる……
 ……嗚咽を漏らし……泣きながら……それだけではない……更に続きがあった……

モニターの中に突然現れたポリバケツ……そして四つん這いにされた私の尻の穴へと、イチジク浣腸が差し込まれる。

『ひいぎこー』

悲鳴を上げる私……やがて、ポリバケツの中へと吐き出される私の排泄物の塊……念入りに何度か繰り返される儀式のような行為の末に、私の尻穴が男達によって蹂躪された……

「ええ……この時には、まだ慣れていなくて、痛かったんですよ……お尻の穴の方は、今では慣れてしまいましたけど、後でたっぷりとサーピスをさせて頂きますからね御主人様……っふ……」

尻穴を犯され、再び悲鳴を張り上げながら、泣き暴れ、必死の抵抗をし始める私の姿……両足を押し広げられ、何もかもを曝け出した股間へと突き込まれる男のペニス……それを見ている客は、明らかに興奮しているのが解る。

「御主人様……もう始めますか？」

私の言葉に男は頷くと、私の身体をベッドへと押し倒し、胸に這わせた手を大胆に動かし、まさぐるようにして乳房を揉む始める。

「あつ……」

小さな声を出し喘ぐ私……演技なのか、それとも本当なのか……私にも解らない……

『あぐうっ……いやああ……ぬいでえ、もっいやああ……だれかあ、だれかたすげえでええ……あひこー』

再生されたままのビデオ……そのモニターの中で、犯され続けている私……男達のペニスを突き付けられ、そのペニスを啜えている私の姿……やがてアソコと口だけではなく、尻の穴にもペニスは突き込まれて、二本のペニスが私を犯して行く……

「あん……っくっせん……ねま……」

その姿を横目で見ながら、私は御主人様に犯されて行った……



これより先の本編

『人妻 律子』 輪姦す』は、

製品版にてお楽しみくだされ
います。